

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人 じねん		
事業所名	グループホーム愛敬 (愛ホーム)		
所在地	上川郡愛別町豊里291番地2		
自己評価作成日	令和 4年 8月 5日	評価結果市町村受理日	令和 4年 11月 14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100223-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、利用者様と屋内・外で安心して生活を楽しく過ごして頂ける様努め、理念である「のびのび にこにこ 暖かく」「ゆっくり いっしょに たのしく」「長寿喜楽 敬老奉仕」を実践出来る様努力し、「ここでなら入所したい」と思ってもらえる施設を目標に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛別町は石狩川と忠別川の二本の川に面し、「きのこの里」として名高い。当事業所は町役場から国道39号線を北見方面へ2km程先を左へ曲がった丘陵地の麓に建っている。建物は一部2階建ての平屋造りでクリーム色と桜色の2色の外壁は、国道から田園越しによく見え、青色に白地の案内看板の表示がある。事業所は「愛ホーム」と「敬ホーム」の2ユニットで、「愛ホーム」は大きく中庭が取られ開放感があり、「敬ホーム」の共用居間の天井は斜めの形状の吹き抜けで、南の排煙窓から日差しが取れる。両ユニットは明るさに恵まれた室内居住環境である。また、コロナ禍において、定期的な換気や温度・湿度管理を行い、利用者の健康安全面に配慮している。「のびのびにこにこ暖かく、ゆっくりいっしょにたのしく、長寿喜楽、敬老奉仕」の理念の他、特質すべきは「介護二十か条」を掲げ、のきめ細かなサービスを職員全員で共有し、利用者の尊厳を大切にチームケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しており理念通りのケアとなる様、日々寄り添うケアに取り組んでいます。	理念は来訪者にも目につきやすい玄関に入った廊下正面の壁面に大きく掲示され、その他4カ所にある。職員は朝のミーティング時に唱和し共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であっても地域の方々から、野菜等の差し入れを頂いています。	コロナ禍のため制約はあるが、地域農家より野菜等の差し入れ等は受入れている。平時は納涼祭・夏祭り等で地域の方々と触れ合うが今は利用者と職員のみで行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域ケア会議への参加をさせて頂き地域活動の一助となればと思っっています。町主催の認知症講演会の講師をしました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、民生委員、行政職員、地域包括センター職員が構成委員となり、2カ月に1回開催し利用者の状況等、意見交換を行いサービスの向上に取り組んでいます。	家族会、民生委員、行政職員、地域包括センター職員等によって会議は年6回開催されている。会議では事業所の取組みや行事等の報告と意見交換等を交えサービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所状況、行事予定の報告と開催等の協力を得ています。ご家族との連携等、緊急時対応についても協力体制が得られています。	役場とは、運営推進会議、ケア会議、介護認定、コロナの助成金等で密な関係を築いている。また、先の土砂災害警報時に於いても日頃の連携により迅速な対応が得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中帯、玄関に施錠をしない等開かれた日常を実践、身体拘束のないケアをしています。	3ヶ月毎に虐待・身体拘束排除の委員会を開催している。会議内容は全体ミーティングで共有し理解を深めている。防犯上及び安全管理のため夜間のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケアが出来る様、職員同士で話し合い、実践しています。		

グループホーム愛敬（愛ホーム）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時、外部研修で学ぶ機会を設け、必要な場面で対応出来る体制を取っています。コロナ禍の為、外部研修は参加を控えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明させて頂き、理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方や、ご家族の意見をお聞きし意向に添って生活して頂ける様努めています。	利用者との日々の関わりの中から希望・要望を聞くよう心掛けている。家族等はコロナ禍のため電話で聞く事が多く、それらの意見等を意向に沿うよう運営に反映させている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員と面談を行い、意見を聞く機会を得ています。	管理者は日頃から何でも話し易い雰囲気づくりを心がけるとともに、毎年10月頃から職員との個別面談の機会を設けている。面談ではその都度話しやすい雰囲気作りで心がけ職員意見の要望を業務に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握を行い、各自やりがいや向上心を持ち働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回内部研修を行い、外部研修に参加する機会を設けたり、報告書を作成し共有に努めています。コロナ禍の為、外部研修の参加は控え、法人主催の新人研修のみ実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと交流を行い、グループホーム協会に加入し、研修会参加や意見、情報交換をする中でサービスの向上に取り組んでいます。コロナ禍の為、交流は控えています。		

グループホーム愛敬（愛ホーム）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話を多く持ち、生活習慣や好みを伺い関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を伺い、何でも相談して頂ける雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の希望される支援を見極め、サービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの作業等を一緒に行い、生活の知恵を学んだり、共に楽しい時間を過ごして頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をお伝えし、共に利用者様を支える関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為出来ていませんが、知人の方等ゆっくり面会等が出来る様努めています。	コロナ禍のため面談は窓越しが続いている。平時は時間や宿泊に制限は無く、関係継続の支援に努めている。また、馴染みや衛生を保持するため理美容は2か月毎に来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護員が仲に入り、会話や作業を共に行う等し孤立されない様努めています。		

グループホーム愛敬（愛ホーム）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何かあれば相談に応じて、フォローの出来る体制となっています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞かせて頂きながら、それぞれの生活を尊重しています。	日常接する暮らしの中で希望や意向の把握に努め、知り得た事は「申送り」で職員間の共有化を図る等意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人によりお話を伺い、今の生活に活かせる様努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや引き継ぎで、一人一人の状況を把握出来る様伝えていきます。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のアセスメント、3カ月のモニタリング、6カ月のモニタリング、見直しを行い、現在の状況に合うよう計画作成しています。	本人・家族から希望などを把握し、職員で毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、短期3ヶ月毎、長期6ヶ月毎に計画の見直しをし、本人・家族等の同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事等を日誌に記入し、介護員全員で情報を共有し見直しを行っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドライブ、紅葉見学、簡単な買い物等その時々生まれるニーズに柔軟に対応しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のボランティア等の協力を得ながら、安全な暮らしとなる様支援しています。今年はコロナ禍の為、出来ていません。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望される医療機関へ通院同行し、状況の把握報告を行っています。	本人、家族の希望する医療機関や協力医等への通院には必ず職員・家族等が同行し、適切に医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム愛敬（愛ホーム）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談、連絡が取れる体制にあり、一人一人の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院生活が安心して送れる様、情報提供を行い、病院と連携し早期退院となる様努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の看取りの指針があり、事前に家族と話し合い、医師の指示を受けながら医療支援が受けられる体制を取っています。	入所時に本人と家族に重度化や終末期についての指針説明し、意思確認書と同意書を得ている。重度化した場合は、本人や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	町の診療所は24時間体制ではないため、医師・看護師等と密接な連携は容易ではないが、今後は役場等と話し合いを重ね、利用者が安心して最後を迎えられるよう終末期等の看取りの医療体制の構築に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練を定期的実施しAEDの使用や応急手当の実践を行い身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、避難時の手順や初期消火を身につけています。6月28日に土砂災害警報が有り、役場と相談しオレンジカフェへ避難しました。	避難訓練は4月と10月で年2回実施している。地域の電気業者と協定を結び、害時の停電時等の協力体制を築いている。この他、6月は消防署の協力でAED講習会を受講している	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや考え、気持ちに寄り添える声掛けをさせて頂いています。	一人ひとりの人格を尊重し、個々に寄り添った言葉づかいとプライバシーを損ねない尊重重視の声掛けに努めている。また、入室の際には必ず承諾を得てから入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを会話を持ちながら汲み取り、ご自身の思いや希望を表現できるよう努め、自分で決定して頂ける様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩等の声掛けを行い、ご自身に合う過ごし方が出来る様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を選んで頂いたりしています。		

グループホーム愛敬（愛ホーム）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと職員と一緒に野菜の皮むきや下ごしらえ、食器洗い等作業して頂いています。	野菜の皮むき・ゴマすり等、後片付けなど利用者の能力を活かしながら、職員と一緒に食事を楽しめる支援に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調に合わせた食事量や水分量を摂って頂き、十分な栄養を確保できるよう努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをさせて頂き介助の必要な利用者さんには付き添いを行い、仕上げ磨きや義歯が合っているか等の確認もさせて頂きながら、清潔の保持に努めています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛け、時間を確認しながら声掛け誘導させて頂いたり、排泄のサインを見逃さず、自立排泄に繋がる様支援を行っています。	排泄記録表により、個々のパターンと表情や動き・しぐさ等の細かな観察と声掛け誘導したりして、日々トイレでの自立に向けた排泄の支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防となる様、運動や水分摂取等を行い便秘予防に努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人無理される事のない様、体調確認をさせて頂きながら、熱め・ぬるめの好みに合わせて入浴を楽しんで頂ける様支援しています。	衣所・風呂場・浴槽等は十分な広さがあり清潔に管理されている。週2回火・木曜と決めているが個々の体調に合わせて楽しく入浴が出来るよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の対応や生活習慣に合わせ、安心してリラックスが出来安眠となる様支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の理解をし、服薬時には職員同士で確認を行い飲み込まれるまで見守り、確認を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人一人の自主性を尊重し楽しみを活かした生活となる様支援しています。			

グループホーム愛敬（愛ホーム）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外散歩・外気浴を行い、運動不足にならない様支援しています。又、外でのお茶等も楽しまれています。	事業所前のカーポートを活用して飲み物等でお茶会を楽しんでいる。ドライブで車窓から景色を眺めたり、隣町の花見等に出かけたりしている。また、恒例の芋掘り等で気分転換をする等、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人と家族の希望により、ホーム管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙や電話を受けたり出来る様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるリビング等では、光・温度・湿度を調整し安心して過ごせる様に配慮しています。作品展示もしています。	共用の居間は広く、床暖房が敷設され。室温・風通し・採光等適切に管理されている。壁面には季節毎に利用者の折り紙作品等が飾られて居心地よく過ごせる共用空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを観たり、ゲームや会話を楽しめる様支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた物等を置かせて頂き、安心出来るよう支援しています。	各居室には手作りの表札が掲げられ、部屋には据え付けのクローゼットと洗面台が備え付けられている。馴染みの家具や家族写真等の励みとなる思い出のものも自由に持込み、居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた支援が出来る様、残存能力等の把握に努め支援しています。		